

第2回 調布飛行場整備検討会

前回の主な意見と対応

令和7年1月

前回検討会の主な意見と対応

- 前回検討会での委員の主な意見と対応状況は以下のとおりである。

主な意見	対応状況
調布飛行場は地元の理解の上に成り立っているという背景を踏まえて、正式飛行場化する際の地元市の受入れ条件を遵守するとともに、安全を確保することが検討の前提となる。	左記の意見に沿って、検討資料を作成している。
新宿や橋本（リニア中央新幹線神奈川県駅設置予定地）との位置関係を踏まえると、調布飛行場は島しょ地域と本州とのハブとしての役割があり、賑わいの創出や観光振興について広域的な視点から考えてほしい。	庁内関係部局等へインタビューを実施
島しょ地域との間の重要な移動手段である航空路を、地元の理解を得ながら、継続していくことが重要である。	左記の意見に沿って、検討資料を作成している。
地元地域の方々に親しまれる施設とすることに加えて、島しょ地域の産業振興にも結び付けることが望ましい。	庁内関係部局や島しょ振興公社等へインタビューを実施
飛行場は一般的に迷惑施設にもなるという中で、どのようにして地域との共生を図るのかという視点も必要である。	地元市住民や地元市等へのインタビューを実施
防災の観点から、発災時に輸送・人命救助の拠点としての機能を確保すること、交通ネットワークを確保することが重要である。	左記の意見に沿って、検討資料を作成している。
再生可能エネルギーを日常の飛行場運営から活用していくことは、脱炭素化への対応に加えて、災害時の地域のレジリエンス（強靭さ）向上にも寄与できるのではないか。	左記の意見に沿って、検討資料を作成している。
今後の検討に当たっては、例えば島しょ地域の意見も含め、様々な立場から意見聴取を行うことが必要と考える。	第1回資料2に示した調査対象に加え、離島航空路線利用者、飛行場周辺事業者などにもインタビュー調査を実施